

# 永寿園 とよなか 10周年記念誌

永寿園とよなか 〒560-0084 大阪府豊中市新千里南町3-2-122 TEL: 06-6840-2211 FAX: 06-6840-2214  
 URL: <http://www.osj.or.jp/eijyuen/> E-mail: [eijyuentoyonaka122@seagreen.ocn.ne.jp](mailto:eijyuentoyonaka122@seagreen.ocn.ne.jp)



豊中市長 長内 繁樹

永寿園とよなかの創立10周年を心よりお慶び申し上げます。

永寿園とよなかは、市立養護老人ホームのほか、企業主導型保育園や診療所などを有す複合型の福祉施設であり、「その人らしく、ここで」の理念のもと、地域のニーズに対応した様々な事業を展開されてこられました。

入所者一人ひとりの生活に寄り添い、自立支援やフレイル予防などに取り組むとともに、多世代交流や地域貢献事業を進めることで、人との輪を広げ、地域に愛される拠点として発展し、豊中市のセーフティネットの一翼を担っていただいています。これらもひとえに、行松理事長をはじめ関係者の皆様のためまご努力とご尽力の賜物であり、厚くお礼申し上げます。

本市におきましては、誰もが住み慣れた地域で自分らしく暮らすことができる地域共生社会の実現に向け、取組みを進めてまいります。

結びに、永寿園とよなか、記念すべき10周年の節目を契機に、地域福祉の増進に寄与される施設としてより一層充実・発展されることを祈念いたします。



永寿園とよなか 理事長 行松 英明

永寿園とよなかは平成25年に当事業団が豊中市の公募により、建設運営法人並びに指定管理者として選定を受け竣工いたしました。

豊中市立の養護老人ホームと事業団設立による地域密着型特別養護老人ホームが一体となった施設であります。豊中市と密接に協力関係を築きながら、ご利用者の皆様に喜んで頂ける質の高いサービス提供と地域の皆様に愛される施設づくりを目指し、全力で取り組んでまいりました。

また、平成28年には法人内第1号となる企業主導型保育事業所を開設し、館内には元気な子ども達の声が響き、高齢者と子ども達の自然な交流が生まれ、あたたかい関わりの中で高齢者は笑顔になり、子ども達は高齢者の皆様とのふれあいを通じて心豊かに育める多世代交流を図ることのできる施設となりました。

事業所内に企業主導型保育事業所を設置することで、育児をしながら働ける環境を整え、新たな職員の確保に繋げるとともに、豊中市の待機児童解消の一助となり、「地域の子どもは地域で育む」を合言葉に、地域に根差した、子育て支援もできる福祉施設を目標に、邁進してまいりました。

令和5年度からも豊中市立養護老人ホーム永寿園とよなかの豊中市の指定管理を継続することができ、この度、施設開設から10年目を迎えることができました。長かったコロナ禍を乗り越え、おかげさまで大過なく事業運営に取り組みますのも、ご利用者の皆様、地域の皆様、そして豊中市関係者の皆様方をはじめ、多くの方々のご支援ご尽力の賜物と思ひ、心からお礼申し上げます。

これからも法人理念である「私たちはつながるすべての人の夢を応援し、すべての人の幸せを支え続けます」を大切に事業運営を実践し、心をつにし全力を尽くしていくことをお誓い申し上げます。

皆様におかれましては、これからも変わらぬご支援、ご指導を賜りますようお願い申し上げます。

竣工式



# 歴代所長 ごあいさつ



H25年~H26年 在籍

## 永寿園とよなかの 始まり

市川 直幸

永寿園とよなかは、平成二五年三月に旧永寿園からの入居者引越しと、開所間もない特養の入居者の暮らしが一遍に始まるあわただしいスタートでした。また養護老人ホームは、4月に認可が下りる状況であり宿舎の位置づけで皆さんが生活されていました。

その中である入居者が無断で外出され夜まで帰所されないアクシデントが起きました。昼、夕、夜と居所を捜していましたが見つけられません。その時夜十時ごろに1本の電話がありました。旧永寿園の職員さんから、旧永寿園で職員らの打ち上げをしていて帰ろうと箕面駅にいたところ、その外に出された方を見かけられ連絡をしてくれたのです。なんとという偶然の出来事の重なりかと疑いましたが、反面この施設はこれからのどんなことが起こっても神様仏様が守ってくれると感じたのが、とても印象的な永寿園とよなかの始まりでした。



H26年~H28年 在籍

月の輪学院

理事長 太田 卓哉

「永寿園とよなか」設立10周年、誠におめでとうございます。

永寿園とよなかが無事に10周年を迎えることができたのは、たくさん地域の皆様のご理解ご協力と、施設を支え、入居者の皆様を支援していただいたボランティアの方々が居られたためであると、心より感謝申し上げます。

建物が出来上がり、開所の前に開催した内覧会にはたくさんの方々が居られました。1階から順番に施設をご案内し、最後にエレベーターで屋上にご案内した時に、目の前の屋上に広がる芝生を見て、歓声を上げて驚いておられたことを昨日のこのように思い出します。

これからも地域の皆様にとって欠かせない施設となるように、いろいろなことに挑戦し取り組んでいってください。  
10周年、誠におめでとうございます。



H28年~H31年 在籍

## 10周年記念に よせて

宇津木 久志

令和5年春、「豊中市立養護老人ホーム永寿園とよなか」及び「特別養護老人ホーム永寿園とよなか」開所10年にあたり、様々な事を思い出します。

平成28年4月から平成31年3月までの3年間現地で仕事をさせていただきましたが、それ以前に平成25年3月、開所時の特別養護老人ホーム永寿園とよなかの施設長（豊寿荘のサテライト施設として兼務）もさせていただきました。

当時就任したばかりの新米施設長であった私を利用者や家族の方々、地域の方々、関係機関の方々、温かく受け入れていただき、その時の皆様のお声、アドバイスなどは私の今の仕事の基礎となっており大変感謝しております。

永寿園とよなかの更なる飛躍を目指し、施設のテーマである「その人らしく、ここで」の実現を目標に、利用者、地域、関係機関の皆様と共に「前に、前に」進んでいっていただきたいと思えます。



H31年~R4年 在籍

## 創立10周年記念誌寄稿

東大阪養護老人ホーム

施設長 大西 智之

この度、永寿園とよなかの創立10周年を心よりお祝い申し上げます。

私は、平成31年4月から令和4年3月までの3年間を施設長としてお世話になっていました。転入して2年目から新型コロナウイルスによる未知の脅威に翻弄されたことを昨日のことのように思い出されます。その間は、養護老人ホームでの感染拡大もあり、地域との関わりや様々な行事が制限され、ご利用者をはじめ、ご家族や地域の方、そして職員に大変ご心配とご迷惑をおかけしました。そのような中でも、ご利用者のご家族さま、東泉丘校区福祉委員さまをはじめとした地域の方、隣地での畑作業でご協力いただいている農業委員会さまと地域の方など、多くの方から温かいご支援とご協力を賜りましたことに、心より感謝申し上げます。

コロナ禍が過ぎようとしている今、石崎所長をはじめとした永寿園とよなかの職員が、よりご利用者へのサービスの質の向上を取り組まれ、地域の福祉向上に寄与されていることを陰ながら応援しております。

新しい土地で10年の間、永寿園とよなかの事業を運営させていただいていることに感謝し、今後も「その人らしい生き方の実現」と「地域と繋がる施設」として、より地域に必要とされる透明性の高い施設となることを祈念します。

結びに、これまで永寿園とよなかに関わられた全ての方に心から敬意を表しますとともに、引き続きご利用者及びご家族、関係諸機関や地域住民の皆様方の変わらぬご支援、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。



# 永寿園とよなかと 東泉丘校区福祉委員会

東泉丘校区福祉委員会

会長 神保由起子



永寿園とよなか設立10周年おめでとうございます。

永寿園とよなかに東泉丘校区福祉委員会がお世話になり始めて早や10年を過ぎました。

永寿園の地域交流室を心置きなく利用させていただけることで、東泉丘校区福祉委員会活動の拠点ができました。この3年間はコロナ感染拡大により行事ができなくなり、大変寂しく感じておりましたが、去年の10月から地域交流室でぐんぐん元氣塾をはじめることができました。そして今年の4月から子育てサロンも再開できるようにになりました。

いつも東泉丘校区福祉委員会にとっての『永寿園とよなか』はなくてはならないものとなっておりますので、今後ともよろしくお願いいたします。



10 t h A N N I V E R S A R Y



# 10周年を迎えて

永寿園とよなか 所長 石崎 剛



入居者・ご家族並びに地域住民や関係各所の皆様、平素は永寿園とよなかの運営に格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

さて、永寿園とよなかは平成25(2013)年3月に事業開始し、この令和5(2023)年に設立10年を迎えることができました。

平成25年を振り返ると、当法人では和泉市にある光明荘のリニューアル工事の竣工、東大阪市にある東大阪養護老人ホームの移転新築工事の竣工、箕面市にある白鳥荘の新築建て替え工事の着工と、建設・リニューアルがラッシュの年でした。

私自身も箕面市の白鳥荘の建て替えに携わっており、新築工事を行うにあたり隣接していた、「豊中市箕面市養護老人ホーム組合永寿園」(旧永寿園)をお借りし仮住まいとして使用する為の改築に立ち会う等、永寿園に何か縁を感じます。

そんな平成25年に竣工した永寿園とよなかは、地域の皆様に支えられながら、地域にとってもより有益な施設となるべく、施設サービスの充実だけでなく、認知症サポーター養成講座や餅つき・夏祭り等地域との関係性を深めてきました。また、平成28(2016)

年12月にはデイサービスセンターをえいじゅとよなか保育園(企業主導型保育)に事業転換し、子どもと高齢者が交流できる共生社会を担う施設に生まれ変わりました。

しかしながら、令和2(2020)年新型コロナウイルスに、世界中が爆発的に感染するという未曾有の事態が発生、生活が一変し緊急事態宣言も宣言され、不要不急の外出の禁止等の事態が長く続きました。入居者家族の皆様にも面会の中止・制限や黙食、レクリエーション等他者と関わる機会の大幅な制限等不自由をかけてしまいました。

令和5年5月8日新型コロナウイルスが2類相当から5類へ移行し、世間では自粛ムードが解消されつつあります。高齢施設が主である永寿園とよなかでは、重症化リスクの高い方もおられることから、この10周年の令和5(2023)年を新たな生活様式の1年目とし、感染対策を十分に行いながらも、入居者サービスの向上や地域の皆様との交流の再開と更なる発展を目指し、この地になくてはならないと言っていただけのような事業運営に邁進していきますので、今後ともご指導ご鞭撻のほどよろしく申し上げます。

